

# 蘇陽高等学校閉校式



刻まれる記憶

一人ひとりの心に

生き続ける蘇陽高

県立高校の統合再編に伴い閉校する、県立蘇陽高等学校の閉校式が3月4日に行われました。蘇陽高校は、昭和26年、馬見原町（当時）の方々の熱い思いにより、県立矢部農林高等学校馬見原分校として設置され、昭和49年県立蘇陽高等学校として独立、発展を遂げてきました。

式は、最後の3年生となった19人の和太鼓の演奏ではじまりました。続いて、3年生が編集した蘇陽高校の映像がスクリーンに映し出され、出席者に当時の懐かしい思いが蘇りました。

赤城陽一校長の式辞、県教育委員会のあいさつなどのあと、同校同窓会会長で閉校式実行委員会の委員長を務めた片倉長久さんが「我が母校蘇陽高、永遠に万歳！」と万感の思いを込めてあいさつしました。

最後に、生徒代表岡田梨沙さんが「蘇陽高卒業生として誇りを持ち新しい一歩を踏み出します」と力強く宣誓。校旗を返納し、最後の校歌を参加者全員で声高らかに歌いました。

- ① 参加者全員で最後の校歌斉唱
- ② 生徒代表による校旗の返納
- ③ 3年生が迫力の和太鼓演奏を披露



学校長 赤城 陽一さん



本校は、先人の絶え間ない努力により、輝かしい歴史と伝統を築いてきました。三綱領「自立」「創造」「礼節」のもと、地域に信頼され、地域に根ざした教育活動に取り組み、「キラリと光り輝く生徒・学校」を目指し、文武両道にがんばりました。卒業生は2932人を数え、各方面で活躍されています。その歴史に終止符を打つのは断腸の思いです。これまで本校生徒を温かく見守ってくれた地域の方々に心から感謝申し上げます。

閉校式実行委員会  
（同窓会会長）  
片倉 長久さん



閉校式にたくさんの参加をいただきありがとうございます。学校の設立は、知保郷の農業振興につながる人材育成が目的だと思います。設立時の関係者の苦労は計り知れません。今回その61年の歩みを終えることになりました。時代の流れとはいえ、残念でしかたありません。蘇陽高校に対し、今まで携わっていただいた全ての皆さまのご尽力に心からお礼申し上げます。我が母校蘇陽高、永遠に万歳！

生徒代表  
岡田 梨沙さん



独立当初265人の生徒も今では19人。最後と生徒として今日までがんばってきました。閉校にあたり、校歌の歴史を知りました。聞きやすく親しみやすい校歌が伴奏テープとともに今も受け継がれていることを嬉しく思いました。蘇陽高がなくなることは悲しみ寂しさで胸がいっぱいになりますが、この校舎で過ごした日々は決して色あせることなく、いつまでも私たちの心に残り続けます。卒業生という誇りを持って新しい一歩を踏み出すことを誓います。

## 蘇陽高等学校の沿革



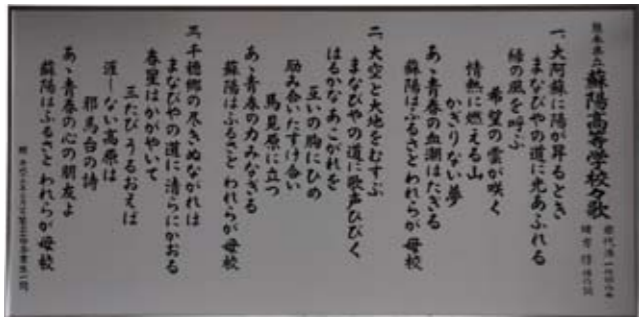
昭和26年	県立矢部農林高等学校馬見原分校（昼間定時制・農業課程）として開校
昭和35年	全日制移行 創立10周年記念式典
昭和45年	農業科から普通科に切替
昭和49年	県立蘇陽高等学校として独立
昭和52年	蘇陽町滝上の現校舎に移転
平成4年	ボランティア協力校として厚生大臣表彰
平成22年	全九州学校図書館コンクール最優秀賞
平成24年	閉校

## 蘇陽高 最後の卒業式

閉校式2日前の3月1日、蘇陽高史上、最後の卒業生19人が、その伝統を胸に母校を巣立っていきました。赤城校長が「蘇陽高校の最終ランナーとして立派に走りぬいた、素晴らしい生徒でした」と絶賛、卒業生19人の強い絆を感じる卒業式でした。



- ① この仲間だから大きな壁も乗り越えられたと互いが信頼する、蘇陽高最後の卒業生のみなさん。（写真は閉校記念式典時）
- ② 卒業証書授与では、赤城校長から卒業生一人ひとりに激励の言葉が掛けられました。
- ③ 式の最後、育ててくれた保護者のみなさんに一礼。



## 矢部高校閉校式

3月1日、同じく県立高校の統合再編に伴い、閉校する矢部高等学校の閉校式が行われ、旧矢部高校をこの日卒業した最後の3年生と、蘇陽高校と統合してきた新設矢部高校の1・2年生、保護者など約230人が出席しました。国歌斉唱のあと、学校長の式辞や生徒代表や来賓のあいさつが行われました。その後、出席者全員で校歌を斉唱したあと、校旗が返納されました。

116年の伝統を持つ矢部高校は閉校されましたが、蘇陽高校と統合再編されてきた新設矢部高校が2年前に開校して、その伝統は受け継がれています。

